

0-23

一般演題 6

当施設におけるヒト塩基性線維芽細胞増殖因子 (bFGF) 添加多血小板血漿 (PRP) 療法の現状

湘南美容クリニック 新宿本院

かたおか じろう
○片岡 二郎、西川 礼華

当施設では2020年7月からヒト塩基性線維芽細胞増殖因子 (bFGF) 添加多血小板血漿 (PRP) 療法を開始している。この治療は約13年前から本邦で始まっており、現在でもbFGF (トラフェルミン) を使用することに対して慎重な意見がある。2020年に厚生労働科学特別研究事業として作成された『美容医療診療指針』において推奨度は2 (行わないことを弱く推奨する) とある。演者はこの治療を2008年から始めており、作製方法から注入方法も工夫して行ってきた。当施設において2020年7月から2021年6月までに282名 (499部位) の治療経験を得た。治療後1・3・6ヶ月目の診察・経過観察を行ったなかで修正加療を要した症例を報告する。なおPRPはYcellbio systemを使用して作成し、bFGFは科研製薬フィブラストを使用している。

(利益相反：無)

< MEMO >

0-24

一般演題 6

眉下切開手術時の多血小板血漿の使用と有効性について

湘南美容クリニック新宿本院

たきざわ ひろあき
○滝澤 宏明、片岡 二郎

【はじめに】われわれは2020年より多血小板血漿 (Platelet-Rich Plasma; 以下PRP) を顔面の美容手術において、縫合部の創に対して使用する治療を開始した。【目的】褥瘡などの慢性創傷に対するサイトカイン療法の一つとして、PRPの使用は比較的一般的である。しかし急性創傷、特に美容の手術におけるPRPの使用報告は渉猟し得た限りほとんど無い。【方法】対象は当院にて2020年8月から2021年3月時点までに眉下切開の手術時にPRPを使用した合計68例。術前と術後1.3.6カ月時点での同一条件での写真評価を行った。【結果】68例全てにおいて良好な結果と高い患者満足度を得られた。PRPの併用による有害事象は認められなかった。【考察】慢性創傷のみならず急性創傷においても、近年は皮弁術や複合組織移植においてPRPを併用することで生着範囲が拡大したとの報告もある。急性創傷な中でも、顔面の美容手術は手術部の瘢痕に対して、高いレベルでの結果が求められる。眉下切開術においては一定の割合で遷延する瘢痕の発赤など、肥厚性瘢痕傾向を認める事があり患者満足度を下げる原因となる。今回眉下切開の手術と同時にPRPを使用し全ての症例において良好な結果を得た。PRPは良好な創傷治療だけでなく、創の質も改善も得られる可能性があると考えられる。

(利益相反：無)

< MEMO >